

# 汚染水の海洋放出に抗議する

原発事故から12年がたとうとしている。

敷地内に並ぶ汚染水のタンクの群れ、原子炉建屋内に滞留する汚染水を処理すれば処理するほど廃棄物は増えていく。1～3号機にたまった800～900トンともいわれる高濃度のデブリにはいまだ手もつけられていない。

放射能廃棄物を処理するために、より汚染された廃棄物を排出するその空しい作業に巨額の税金がつぎ込まれ、大手ゼネコンに流れる。再利用のもとに10年かけて集めた放射能汚染土を全国に拡散させ、汚染水を海に流す。税金かけて人々を被ばくさせ、外国にまで広く放射能で汚染させる。

人々の命と暮らしをないがしろにする空しい事業にどこまで税金を投じようというのか。

原発事故さえなかったら失うことのない命がある。

故郷を奪われ、家族がバラバラにされた怒りやくやしさを、そして原発のない社会を作ってほしいという思いを願い続けてきた。しかし、国や東電は何の解決策も示さず、「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」という約束さえも踏みにじり、放射能汚染水の海洋放出を強行した。

双葉町の畜産農家を営んでいた女性が夫の遺影を抱いて原発事故で住めなくなった自宅を訪れた報道に胸を打たれた。

牛の慰霊碑の前で手を合わせる姿を見、餓死した牛たちの話に、深い悲しみと言い尽くせぬ怒りを覚えた。

牛舎にあったたくさんの朽ち果てた牛の骨に、原発事故の恐ろしさと原発を造ってしまったことへの憤りが募る。

安倍神話はもろく崩れ、人間はもろろん動物たちも犠牲になった。

今も復興は遠く、廃炉への道も険しい。

放射能汚染水の海洋投棄は今後も無期限に続く。

原発事故を忘れてはならない。



## 放射能汚染水を海に捨てるな!

## 講演会

### 福島第1原発の放射性物質の流出と 汚染水処理の現状

日時 **12月2日(土)**  
午後1時30分から3時30分

場所 **いわき市労働福祉会館 3階**  
いわき市平堂ノ前22 ☎0246(24)2511

原子力資料情報室 事務局長  
Citizens' Nuclear Information Center

講師 **松久保 肇 氏**

放射性物質は内に閉じ込めて管理するのが原発の大原則だ。

その大原則をかなぐり捨てて、海に投棄するやり方は、ロンドン条約に違反し、水俣病などの公害と等しく重大な罪である。

しかも、政府と東電は海洋放出の代替案として、大型タンク長期保管案やモルタル固化保管案などをまともに検討すらしていない。

漁業関係者や被災者の切実な願いを踏みにじり、世界の人々の反対の声を無視した暴挙を絶対に許すわけにはいかない。ただちに放射能汚染水の海洋投棄を止める!